

■「時間稼ぎ」で平常心を

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける地域経済。この危機をどう乗り切るか頭を抱える中小・小規模企業の経営者も多いはずだ。「小規模事業者持続化補助金」の立案者の一人で、経済産業省・中小企業庁の政策ブレーンとしても活躍する事業承継・再生コンサルタントの立石裕明氏は、自身の経験から今、経営者に必要なのは「平常心を持つこと」だと強調する。

—コロナショックが猛威を振るっています。

私もかつては淡路島の旅館の3代目として事業承継し、ホテル事業の拡大を進めていました。しかし、そんな矢先に阪神淡路大震災が起きました。ようやく再起しましたが今度は東日本大震災がありました。こうした経験から言えるのは、有事のときこそ経営者は『平常心』を忘れてはならないということです。

平常心を保つためには、安心感につながる手元資金の確保が必要です。現在、緊急経済対策が打ち出されています。融資を受けるにしても『カネを借りることに変わりはない』と嘆く経営者もいます。しかし、手元に資金があることは、同時に『時間稼ぎ』にもなります。

—「時間稼ぎ」とは。

『今日明日を生き延びられるか』という心境より、手元資金があることで3カ月、半年先まで乗り切れるということは時間稼ぎになり、平常心も持てます。これにより、会社のことが冷静に考えられます。

—受注が止まった企業や、お客さんがいなくなった店舗も増えています。

おそらく、時間がたっぶりできた経営者も多くなったと思います。ただ、政策を批判する気持ちも分かりますが、敵は新型コロナです。批判するより、今打ち出されている支援策に乗っかる方が賢明といえます。十分にある時間をいかに有効に使うかも問われています。これまで避けてきた経営上の『数字』とじっくり向かい合って、対策や次のことを考えるのも手です。

—これから心掛けることは。

情報収集が大切ですが、インターネット上ではさまざまな憶測やデマが多いのも事実です。デマ情報に振り回されないことが大切です。経済産業省や中小企業庁、厚生労働省のホームページを逐一チェックするなど、正しいニュースソースから仕入れることも求められています。